

空道無門

KUDOMUMON VOL.4

かつて、大道塾専門誌として発行されていた立派な雑誌「大道無門」。情報の発信がウェブ中心に行われる時代となったことで、数年前にその役割を終えましたが・・・。「やっぱり紙で、大道塾や空道の企画記事を残して欲しい」というリクエストが多く寄せられたことで、こじんまり復活! 毎年2回、春・秋に発行される全日本大会パンフレット内にて、掲載いたします。

2015 体力別全日本大会 展望

世界選手権後の“端境期”。新人が優勝をさらうか? それとも“台東の悲劇組”、リベンジなるか?

【総論】

過去、4年に1度の世界選手権後の最初の全日本大会といえば、世界選手権を機にベテラン選手が引退、あるいは引退でなくとも世界戦線で闘ってきた選手が休養をとる(欠場する)ため、思わぬ選手が上位進出を果たすケースが多々あった。いったいこれは端境期。今大会でも、想定外のニュースターが現れるかもしれない。一方で、昨年10月13日に台東リバーサイドスポーツセンターで行われた世界選手権日本代表最終選考試合で敗れ、ギリギリのところまで世界へのキップを逃した**巻礼史**(-240)、**杉浦宗憲**(-250)、**伊藤新太**(-260)らもエントリーしている。彼らは、あの“台東の悲劇”の悔しさを全日本を獲得することで晴らしたいという思いでいっぱいなのだろう。果たして、今大会よりU19から一般へのカテゴリー転向を果たす、**岩崎大河**(+260)、**川下義人**(-240)、**大倉萌**(女子)といった面々が、昨年の清水亮汰同様に、ベテランたちをなぎ倒していくのか? それとも、ベテラン勢が意地を見せるのか? 4年後に向け、すべてのドラマは、この日に始まる。

-230クラス

2013年全日本-230クラス準優勝・全日本無差別4位、2014年世界選手権-230クラス第3位の**日黒雄太**が優勝候補筆頭。2010年全日本-230クラス準Vの**近田充**、2006年全日本-230クラス準Vの**渡部和暁**、その渡部から東北予選決勝で効果3を奪った**阿部宏信**が追走する。ダークホース的存在は、キレのよい右ストレートで九州予選を制した**田中正明**か。

-240クラス

半年前の世界選手権代表が誰もエントリーしていない男子唯一の階級。2006年全日本同階級準優勝の実績をもち、昨年、最終プレーオフで世界選手権日本代表の座を逃した**巻礼史**は、今大会で初の全日本制覇を果たし、無念を晴らすことができるか? 06年全日本-250クラス優勝者・**小野亮**、00年全日本-250クラス優勝者・**能登谷佳樹**が階級を下げて出場権を得たのもトピックだが、その小野・能登谷らが出場した関東地区予選を制した**服部晶光**、同準優勝の**國枝厚志**の20代前半ならではの勢いのある闘いぶりが、ベテランを制する可能性も高い。また、小学校入学とともに空道の世界に入り、大谷高校空道部の主将を務め、昨年世界選手権U19準優勝を遂げた**川人義人**が初めて一般カテゴリーにエントリーするので、どこまでやるか? 巻と同じく世界代表候補だった**吉濱実哲**、**柳川慶夫**、打撃のキレる**神代雄太**にも注目したい。



<PH-1>



<PH-2>

<PH-1>

川人義人(中央)。大谷高校卒業後は大道塾日進支部に戻り全日本クラスの選手達と稽古を積んでいる

<PH-2>

服部晶光(左)。高校時代に大道塾仙台西支部に入門し、大学進学にともない横浜北支部に。今春、大学を卒業し、就職。聴覚障害をもちながら、コツコツと基本稽古、移動稽古を続ける実直な性格で、ブレのない打撃を身につけた

-250クラス

清水亮汰が稽古中の膝のケガで欠場するこの階級、2013年全日本無差別7位、2014年世界選手権-250クラス日本代表の**深澤元貴**、その深澤にプレーオフ戦で日本代表の奪われた**杉浦宗憲**が本命か。関東地区予選を制した**加藤智亮**は、空手団体所属の選手ながら、組み技、組んでの打撃を含め、空道を熟知した闘いぶりをみせる。2014年世界選手権-260クラス第3位の**加藤和徳**の実弟だけに、何が必要かは熟知しているのだろう。この他、地力のある**藤田隆**のアップレッシュな闘いぶりにも期待したい。

-260クラス

昨年の全日本同階級優勝者の**加藤和徳**に加え、**渡部秀一**、**山田壮と**、2014年世界選手権日本代表が3名も出場する。渡部は、優勝したアダム・カリエフに対して絞め技を極めかけるなど、もっとも肉薄した闘いをみせていた。加藤と渡部は、昨年と一昨年の全日本で1勝1敗だけに、準決勝で当たれば因縁の決勝戦となる。一方、世界出場を逃した**伊藤新太**は22歳にして7年、**押木英慶**は23歳にして12年の空道歴をもつ。そろそろ世代交代を主張したいところだろう。

+260クラス

体力別5度の優勝を誇る加藤久輝はしばらくの間、MMA(無着衣総合格闘技)競技にて研鑽を重ねるため、欠場。その留守を守るのは、柔道において2014年全日本選手権ベスト16と申し分ない戦績を誇り、空道でも昨年の世界選手権270+クラスで準優勝した188センチ、120キロの**野村幸太**か。対抗馬は、この階級らしからぬスピードの右ストレートをもつ、もう一人の270+クラス世界選手権代表、**辻野浩平**だろう。特例として出場を認められた185センチ、96キロの17歳、**岩崎大河**が彼らにどこまで迫るか? 期待したい。



岩崎大河。関東地区予選において、ひと回り、ふた回り年上の選手を相手に3勝を重ね、優勝を果たした

女子クラス

世界選手権に出場した3人のうち、前原映子、吉倉千秋が引退し、庄子亜久理は欠場。そんななかで、柔道で東海大学のチームメンバーとして全日本学生選手権3位の実績をもつ**大谷美結**、同じく柔道経験を活かし、組み技で強さを発揮する**戸田佳奈子**、18歳となりはじめて一般の全日本に参戦するジュニア大会王者・**大倉萌**・**今野杏夏**……と、新鋭が出揃った今大会。地区予選において、大倉が大谷の、今野が戸田の組み技に屈しているだけに、それぞれ、リーグ戦での再戦で、ジュニア出身者が打撃でリベンジを果たすのか、それとも柔道出身者がパワーの差を再びみせつけるのか? 注目が集まる。一方で、これら新人に対し、2011年に全日本を制した**神山喜未**がキャリアの差をみせつけてくれれば、多くの者に希望を与えることになる。



大谷美結。関東地区予選決勝において、内股一閃。この後、腕十字で大倉から一本を奪った

空道 私の得意技

我妻 猛

第4回

Takeshi Agatsma

細身の体型を 活かす戦略

空道全日本大会で上位進出を果たした経験をもつ選手や支部長に、得意技のポイントを公開してもらうこのコーナー。第4回目は、第3回(2009)・第4回(2014)世界選手権-240クラス出場、2004年全日本選手権同級優勝の我妻猛・四段にご登場いただく。

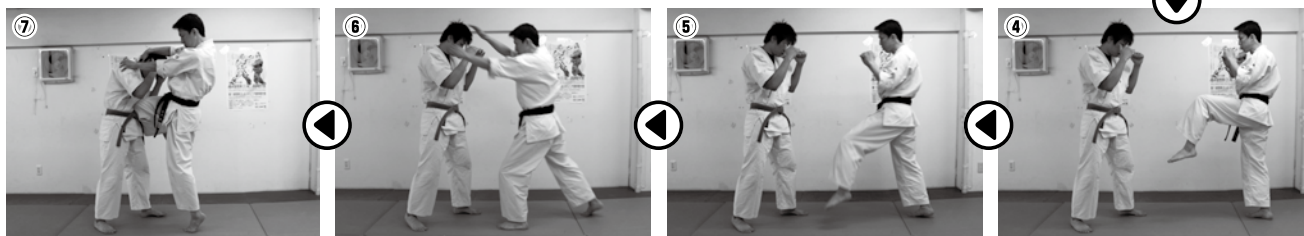
15歳で空手、16歳で空道に取り組みはじめ、30歳で全日本優勝に辿りついた我妻四段は、身長176センチにして、体重は60キロ台前半という、空道選手としては、細身の身体をもつ。「体質的に筋肉量を増やすことが出来なかった」というそのハンデを、絶え間ない研鑽により、独自のスタイルを編み出すことで克服し、競技歴15年目での全日本制覇に結びつけた。

今回紹介するのは、その「遠い間合いを保ち、近づいたら、パンチの間合いに立たず、組み技に持ち込む」スタイル。長身の選手には、ぜひ参考にして欲しい。



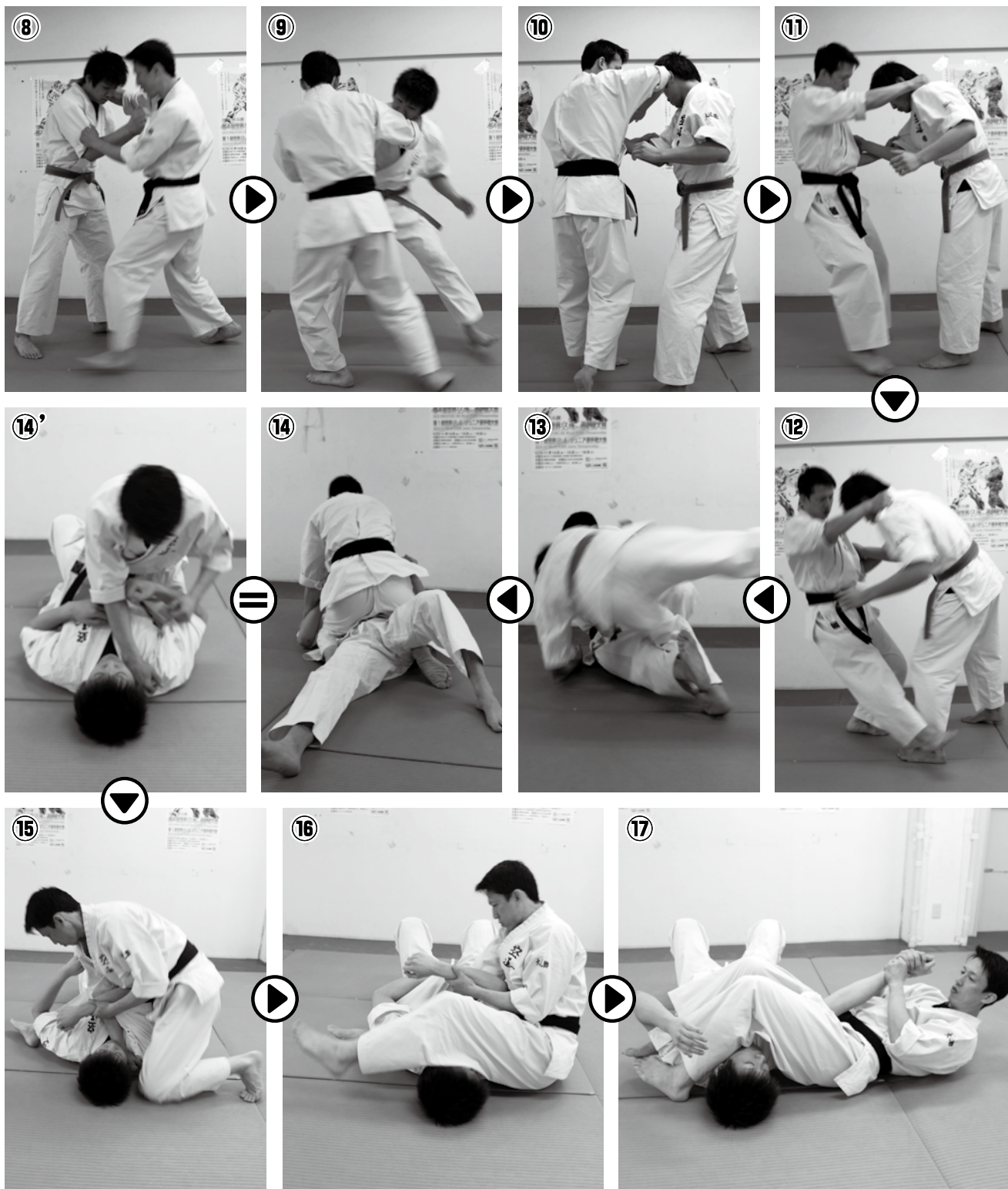
I. 蹴りで間合いを保ち、フェイントを掛ける

遠い間合いから、長いコンパスを活かし左前蹴りや左ミドルを放ち、相手を近づかせない(①→②→③)。ロングレンジの蹴りを相手が警戒するようになったら、左足を上げて、相手の気を引いておいて(④)、蹴らずに前方を着地させ(⑤⑥)、右の膝蹴りへ(⑦)。相手が膝蹴りのディフェンスに気を取られている間に組みつく。遠い間合いから、一気に組みつくことで、パンチの攻防がなされる中間距離に留まることを回避しているわけだ。



組む際は首相撲の体勢(左写真)でなく、袖や襟を掴んだ体勢(中央写真)となる。この方が、頭突きや投げ技を活かしやすい。



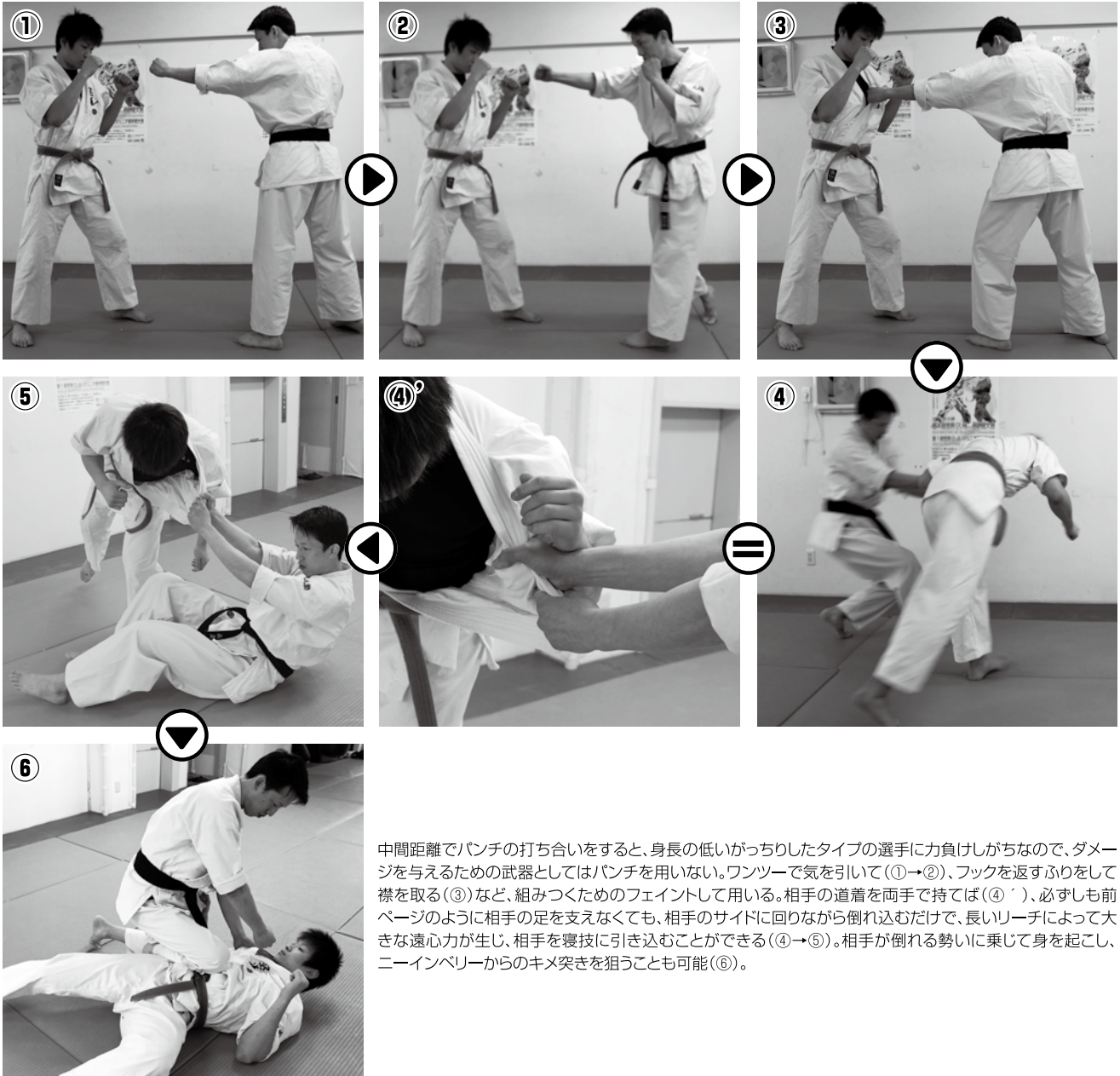


組んで頭突きや膝蹴りを入れるとともに、体さばきと釣手の引きで相手を崩す動き(⑧→⑨)を併用し、相手を混乱させる。そして再び打撃(写真⑩ではヒジ打ち)を入れ、最終的には、自ら倒れ込みながらの支釣込足へ(⑪→⑫→⑬)。柔道でいうところの横掛(横捨身技)に分類される投げ方といえよう。相手と同体で回転し、マウントポジションを取り(⑭=⑭'), マウントパンチによるキメ、腕十字(⑮→⑯→⑰)へ

自ら倒れ込みながらの支釣込足(⑪→⑫→⑬)を行う際、必ずしも、投げ自体を成功させる必要はない。相手が手を着いてバランスを保ち、自分だけが仰向けになった場合は、ガードポジション(左写真)を取り、腕十字(中央写真)や三角絞め(右写真)に移行する



II.パンチは牽制のみに用い、遠心力で引き込む



中間距離でパンチの打ち合いをすると、身長が低いがっちりしたタイプの選手に力負けしがちなので、ダメージを与えるための武器としてはパンチを用いない。ワンツースで気を引いて(①→②)、フックを返すふりをして襟を取る(③)など、組みつくためのフェイントして用いる。相手の道着を両手で持てば(④´)、必ずしも前ページのように相手の足を支えなくても、相手のサイドに回りながら倒れ込むだけで、長いリーチによって大きな遠心力が生じ、相手を寝技に引き込むことができる(④→⑤)。相手が倒れる勢いに乗じて身を起こし、ニーインバリーからのキメ突きを狙うことも可能(⑥)。

III. 飛び込んでくる相手にはテンカオ



遠い間合いを打破してパンチを打ち込もうと、身長が低い相手が飛び込んできた場合は、カウンターの膝蹴り(いわゆるテンカオ)を合わせる(①→②→③)。